

令和6年度 東京都献血推進協議会

血液製剤適正使用部会 議事要旨

- **開催日時**：令和6年10月16日（水曜日）18時00分から19時00分まで
- **開催方式**：WEB会議
- **出席者**：小竹部会長、田中委員、比留間委員、蓮沼委員、横山委員、名倉委員、奥山委員、藤田委員、牧野委員、渡辺委員、大橋オブザーバー事務局（東京都保健医療局保健政策部疾病対策課）
- **議 事**：
 - （1）血液製剤適正使用推進事業について
 - ① 東京都輸血療法研究会について
 - ② 血液製剤適正使用アドバイス事業について
 - （2）輸血状況調査について
 - ① 令和5年輸血状況調査の結果（報告）
 - ② 令和6年輸血状況調査の実施
 - ③ 令和6年診療所輸血状況調査の実施
 - （3）その他
 - ・「小規模医療機関における輸血マニュアル」の改定について

議事内容：議題に沿って以下のような内容の協議や意見交換が行われた。

- （1）血液製剤適正使用推進事業について
 - ① 東京都輸血療法研究会について
令和6年度の開催方法やプログラム内容等について、事務局から報告した。
 - ② 血液製剤適正使用アドバイス事業について
令和6年度の実施方法や実施状況等について、事務局から報告した。
- （2）輸血状況調査について
 - ① 令和5年輸血状況調査の結果（報告）
令和5年輸血状況調査の集計結果及び評価指標について、事務局から報告した。
また、令和5年輸血状況調査集計結果について、赤血球製剤と血漿製剤のグラフを、廃棄理由を単純に集計したグラフから製剤ごとの理由別廃棄量が分かるようなグラフに変更を行ったため、各委員に意見を募った。

【上記に係る意見等】

- 赤血球製剤の廃棄理由別廃棄量の推移について
 - ・（昨年と比較して）廃棄量が減少している事が分かりやすいグラフとなってい

る。赤血球製剤の有効期限が延びた事が、病床数が小さい医療機関に対してどのように影響したのか教えてほしい。

→（事務局より）

廃棄量が減少したのは、主に200床から400床の医療機関であり、50床未満の小さい医療機関については、あまり減少が見られなかった。

② 令和6年輸血状況調査の実施

令和6年輸血状況調査の案について、事務局から説明した。

⇒特に異議なく、全委員より事務局案について了承を得た。

③ 令和6年診療所輸血状況調査の実施

診療所輸血状況調査は4年ごとに調査を実施しており、前回調査の令和2年から4年経過したため、今回調査を実施する。

そのため、令和6年診療所輸血状況調査の案について、事務局から説明した。

⇒特に異議なく、全委員より事務局案について了承を得た。

（3）その他

- ・「小規模医療機関における輸血マニュアル」改定について

改定内容の案について、事務局から説明し、各委員に意見を募った。

【上記に係る意見等】

- 在宅輸血を実施している医療機関が非常に増えている状況の中、特に血小板製剤に関しては、当該マニュアルがとても参考になる。

今回、血液製剤を患者の自宅へ搬送する際の、血液製剤の質の担保に関する内容や、抗CD38抗体薬の使用に関する内容など記載されており、充実したマニュアルになっていると感じる。

- 輸血速度について、当該マニュアルに、輸血開始から最初の10～15分間は1分間に1mL程度、その後は患者の状況に応じて1分間に5mL程度まで速度を上げる事ができるという記載がある。輸血用血液製剤の添付文書と同様の記載ではあるが、在宅診療の対象の多くは高齢の方で、重度の慢性貧血や、体重が少なめの方が多いため、TACOのリスクを十分に考慮しないといけない。輸血速度が5mL/kg/hを超えた場合には、TACOのリスクが高まる。1分間に5mLの速度というのは、例えば50kgの人だと、6mL/kg/h入る計算になるため、TACOのリスク因子になる。今、輸血による死亡で一番多いのはTACOであるため、適正な輸血速度は患者によ

って異なるが、1mL/kg/h ぐらいゆっくり輸血をした方がよいと思う。

もう少し、TACOのリスクについて考慮する必要があると思う。

→（事務局より）

事務局で持ち帰り、容量負荷のリスクについて追記し、患者に応じた輸血速度を決めていただくという記載を、当該マニュアルに追加するという方針でどうか。

⇒全委員より異議なし。上記の方針にて、当該マニュアルの改定を行う事とする。

【問合せ先】

東京都保健医療局保健政策部疾病対策課

電話番号：03-5320-4506